

C-52 長着のえり付けについて(オ4報)——えり元打ち合わせ——

すみれ女短大 ○阪本 弘子

岡山就実短大 小川 智野

目的 身体計測を基にした作図法による単きもののえり元状態と、これが動作によつて生ずる変化を観察。この作図法の特長を把握し、検討することを目的とする。このことは着用実験の結果より考える必要がある。そこで被検者2名を選定し、その寸法によつて作図したきものを試作、着用し静止時えり元状態と動作後の着くずれ現象の変化を観察した。

方法 I 被検者 短大学生2名 1) 標準体(A) 2) 肥満体(B)

2 大裁女単長着の種類 1) 作図法通り(基本型) 2) 従来の方法(普通型) 3) 抱巾をえり付け線できめる(前傾型) 4) 抱巾を股側で調整する(股傾型) 5) ばちえり

3 材料 もめん縞1反 4 整図 製作 5 着装条件 スリップの上に着用、腰ひも2本、だてじめ、半巾帯。補正は一切しない。6 観察方法 静止時と動作後の状態を写真撮影をして、その結果について観察した。動作は両上股90°前拳から直上上拳、拳きは1回より5回まで繰り返して行なった。7 観察項目 1) えり元開角 2) えり腰斜角

3) えり元下り 4) 胸明ずれ 5) 剣先ずれ 6) 帶上端ずれ

結果 動作後の胸明ずれに重点を置いて観察した。

1 普通型方法により製作のきものは、被検者標準体(A) 肥満体(B)ともにずれが大きい。

2 前傾型の方法により製作したきものは、股傾型の方法によるものよりずれが少ない。

3 基本型の方法は 前傾型の方法より更にずれが少なく、最も優れている。

以上の結果より 大裁女単長着のえり元打ち合わせについての状態を考察すると、この着用実験範囲内においては 基本型製図により製作したきものが 適当であるといえる。